

# Just Now

## 1. はじめに

大阪市では、平成23年度より、すべての小中学校がスムーズに連携し、「生きる力」の3つの要素である「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を、より一層バランスよく育むことをねらいとして、小中一貫した教育を行っています。筆者は、平成21年度より、「小中連携を基盤とした小学校外国語活動」をテーマとする研究に関わってまいりました。

ここでは、その取り組みのひとつ、大正東中学校と4小学校の連携活動を紹介します。本中学校区は他の中学校区と比べて校区の小学校数が比較的多いという特徴があります。毎月1回5校の管理職が集まる情報交換会（五校連絡会）を実施し、小中連携事業としては、「小学校6年生を対象とした中学校体験授業」と「中学校2年生を対象とした職業体験学習による小学校訪問（各小学校が中学生を受入れ）」の2つを主な柱としています。さらに、小学校外国語活動と中学校英語科の連携のために、夏休みと冬休みの年間2回の「指導者間合同研修会」を実施しています。

小中連携の主なテーマは、5校のつながりをさらに深めながら、1) 日々の外国語活動に有用な教材や教具について情報交換すること、2) 外国語活動の先進的な取組に学び今後の方向性を共有すること、3) 小中一貫カリキュラム作成に向けて取り組むこと、です。

## 2. 中学校体験授業の一例

小学校6年生の各クラスで体験したい教科と日程を調整し、小学生が中学校に来校して中学校1年生の授業を体験するというものです。中学校体験

## 小中の接続に向けて

### — 大阪市の小中連携への取り組み

吉田 晴世 Yoshida Haruyo  
(大阪教育大学)

授業の目的は、中学校の授業を体験することで、少しでも小中のギャップを減らそうとすることにあります。

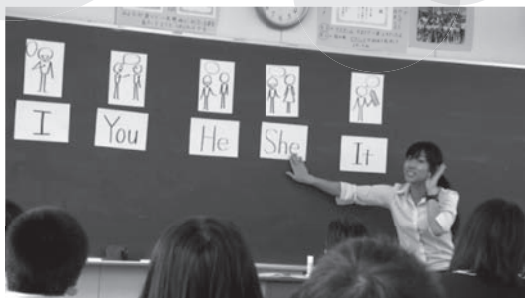
#### (1) 本時の目標

小学校外国語活動で育まれた「聞くこと」「話すこと」の素地を活かし、中学校では4技能の総合的な指導によって「読むこと」「書くこと」へつなげます。本時では、「英語の音声に慣れ親しませながら、コミュニケーション活動を通して体験的な理解を図り、『書くこと』につなげる」ことを目標としています。言語材料は、中学校1年生入学当初の指導内容である人称代名詞 (I, you, he, she, it) を取りあげます。

#### (2) 授業の実際

中学校1年生初期の指導には、GDM (Graded Direct Method) を取り入れています。英語で英語を教える方法であるGDMを用いることにより、英語による音声のインプットと視覚的な効果を用いて英語そのものに十分慣れ親しませてから文字指導につなげることができます。主に人称代名詞とbe動詞の定着について、GDMを用いて指導しています。小学校外国語活動で育まれる「聞く」「話す」活動を中心としながら、児童が抵抗なく文字の習得を行えるよう意図しています。

「音声導入」では、「I, you, he, she, it」を発音し、ジェスチャーで導入します。「he, she」は指名した生徒の周囲の男子児童、女子児童を示し対応する英語を言わせ、「it」は、本やペンなど具体物を見せて言わせませす。「絵・音と文字を結ぶ活動」では、「I, you, he, she, it」の文字カード（それぞれの語をA4大に書いたもの）を黒板の絵に対応させて提示し、リピートさせます。児童の利き手を空中に挙げさせ、一緒に文字カードを見て発音しながら書き順を練習します。



「音と文字の定着」では、絵カードと文字カードを2～3片に分割したものを、生徒の人数以上に用意し、1人あたり、1～2枚配布します。言葉を使わずにカード片を提示しながら相手を見つけ、バラバラのカード片を合わせて文字を完成させて、黒板に掲示するよう指示します。

参加した児童からは、「先生の言っている言葉がほとんど英語だったけど、手の動きなどでだいたいわかりました。前はちょっと不安だったけど今日の勉強はよくわかったし楽しかったからよかったです。英語だと手の動きや表情が豊かなので色んな人とコミュニケーションがとれてすごいと思いました」、「今日、体験して思ったのは、英語はおぼえて言えるとすごくうれしいし、楽しいので英語をもっとおぼえたいです」という感想がよせられました。

### 3. 小中学校年間指導計画の交流

4小学校間で行われている活動内容を共有し、中学校で実施されているカリキュラムと照合することで、小中一貫カリキュラムの構築をはかっています。22年度の時点では、ALTの来校時間は大阪市の場合には年間6時間で、あとはすべて、担任の指導により外国語活動が行われています。各校で配当する時間数、取り扱う単元等でバラツキがありましたが、この年間指導計画の交流を通じて、各校間の時間数、取り扱うトピックや語彙などの不均衡を是正し、中学校への橋渡しの大きな手掛かりとなったようです。

### 4. ワークショップ(ワールド・カフェ方式)

ワークショップでは、たくさんの参加者がいても、それぞれの意見や考えを交流させることができる

「ワールド・カフェ方式」を取り入れて研修を実施しました。

ワールド・カフェ方式では、4人1組のグループで席替えをしながら話し合いをすすめます。まず、最初の4人グループで話し合いをし、話し合いが1回終わるごとに席替えをします。その際、1人をテーブルホストとして残り、ホスト以外の3人がそれぞれ違うテーブルに移動します。席替えしたテーブルで、新しいメンバーと話し合いをすることで、多くの方と出会い、意見を交わすことができます。最後に全体で交流し、共有を図ります。この時のテーマは、「子どもにとって楽しい小学校外国語活動とは?」と「交流をめざす外国語活動のアイデア」でした。

参加した教員からは、「席替えがあり、たくさんの先生方と話ができてよかった」「小と中が交流でき、参考になる意見や、自分では思い浮かばないものがあって、大変勉強になりました」という好意的なコメントが多くよせられました。

### 5. おわりに

上述の中学校体験授業に加えて、小学校への出前授業も意義があるでしょう。児童の移動が伴わない分、頻繁に実施することができます。

さらに、研修の必要性もあげられます。それぞれの地域の教育委員会がきちんと方針を決め、プログラムを作っていく必要があります。大阪市では、小学校外国語活動教員研修において、小中学校における指導の違いについて体験を含む講義、小学校外国語活動で体験的に学習してきた生徒の力を活かす指導法研修、中学校との目標の違いと小学校担任ならではの指導法についての講義などを、定期的に行っています。英語活動を通じて、児童の学びの意欲を高め、相手を思いやる豊かなコミュニケーション力を育み、それを継続させていくためにも、しっかりとしたゆるぎない小中連携を確立させることは、教育者としての使命でありましょう。